

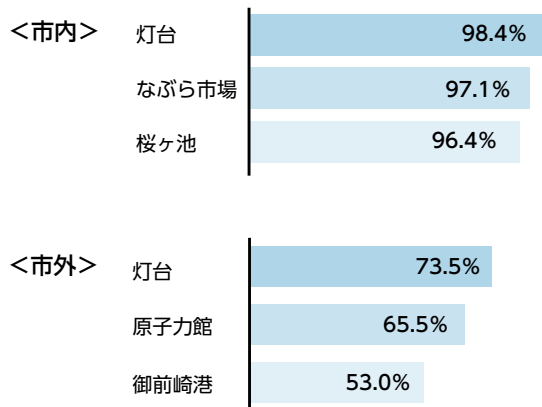
御前埼灯台の主な出来事

1635年	幕府が御前埼に燈明堂設置を決める
1866年11月1日	観音埼灯台着工
1872年5月26日	御前埼燈台着工
1874年4月30日 5月1日	御前埼燈台完成 御前埼燈台点灯開始
1877年8月	日本人技師による運転開始
1935年7月11日	静岡地震発生、灯塔にひびが入る
1944年12月7日	東南海地震発生、灯塔にひびが入る
1945年7月24日	米軍艦載機機銃攻撃。レンズ、灯器、回転機械などが破損し、光明を失う
1957年7月15日	映画「喜びも悲しみも幾年月」ロケ始まる
1974年5月23日	御前埼灯台100周年記念祭
1983年3月28日	耐震補強工事
1988年4月	灯台周辺観光施設整備事業着手
1993年3月31日	灯台ライトアップ開始
1994年3月	見尾火燈明堂復元
1999年4月1日	灯台無人化。静岡航路標識事務所管理となる
2005年4月1日	清水海上保安部航行援助センターの管轄となる
2016年12月	改修工事了完了



御前崎市について知っている地域資源は？

(「御前崎市シティプロモーション戦略策定のための市民意識調査」)



①見尾火燈明堂の復元。当時、暴風雨の際は2km先にも光を届けることができなかった②灯台に併設された資料館。以前は吏員退息所だった③灯台上から海岸線を望む



御前埼灯台の歴史

御前崎沖は暗礁が多く潮の流れが複雑な難所でした。1635年、船の位置を確認する目安として、幕府によって見尾火燈明堂と呼ばれる建物が建てられました。行灯が置かれ、村人2人1組による火の番は毎晩約240年間も続けられました。

1872(明治5)年、御前崎にも洋式灯台が起工されることが決まり、政府が招いた英国人技師リチャード・ヘンリー・ブランドン氏が設計、監督にあたります。およそ2年の歳月をかけ、1874(明治7)年、ついに完成。初点灯の日は静かな、星空の美しい夕べで、ブランドン氏が光をとますと、サーッと真っ白な光の矢が灯台の頂上部から飛びました。村人たちは歓声をあげ、祝福し合ったといいます。

豪雨にも塩分を含んだ烈風にも耐え続ける灯台。地震や太平洋戦争では痛手を被りましたが、その都度応急手当てで乗り切り、灯台としての役割を果たしてきました。戦後は映画「喜びも悲しみも幾年月」の主要舞台としても選ばれ、広く知られるようになりました。

1999(平成11)年、御前埼灯台は遠隔管理となり、無人になりました。現在は清水海上保安部が管理しています。